

## インドネシア・スコワティ油田における CO<sub>2</sub>圧入試験の実施に向けた共同スタディ契約を締結

石油資源開発株式会社（JAPEX、本社：東京都千代田区、代表取締役社長：藤田 昌宏、以下「当社」）は、インドネシア国営エネルギー会社 PT Pertamina (Persero)（以下「プルタミナ」）、PT Pertamina EP（以下「PEP」）、および独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC、本部：東京都港区、理事長：高原 一郎）と、インドネシア共和国（以下「インドネシア」）東ジャワ州のスコワティ（Sukowati）油田における二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）圧入試験（以下「本試験」）の実施を目指し、4者による共同スタディ契約（Joint Study Agreement：JSA、以下「本JSA」）を締結しました。

当社は、世界的な脱炭素化の流れにともない、国内外で複数のCO<sub>2</sub>の地中貯留に係る検討に携わっています。インドネシアにおいては、2017年から同国内におけるCCS<sup>(\*1)</sup>/CCUS<sup>(\*2)</sup>の実現可能性に関する調査を開始し、2021年からは、プルタミナおよび石油ガス技術研究開発センター（LEMIGAS）らと共同で、スコワティ油田を対象に二国間クレジット（Joint Crediting Mechanism：JCM）<sup>(\*3)</sup>を活用したCCUSプロジェクトの事業性評価スタディ（以下「本スタディ」）に取り組んでいます。本試験は、プルタミナとPEP、JOGMECが2022年に同国西ジャワ州の油田において同様のCO<sub>2</sub>圧入試験を行った流れを踏まえ、本スタディでプルタミナとともにCO<sub>2</sub>圧入に係る技術的な検討を進めている当社を含めた4者で、スコワティ油田を対象に実施することになったものです。

本試験では、スコワティ油田に対するハフ&パフ（Huff&Puff）法<sup>(\*4)</sup>を用いたCO<sub>2</sub>の圧入と、CO<sub>2</sub>-EOR（Enhanced Oil Recovery：石油増進回収）およびCO<sub>2</sub>貯留効果の検証を行う予定です。本JSAにもとづき、今後本試験のテスト計画の策定などを進めていきます。

当社は、今後も本試験を含め、国内外におけるカーボンニュートラル分野の事業化を目指した取り組みを進め、時代に合わせた「総合エネルギー企業」としての成長と、企業価値のさらなる向上を引き続き目指してまいります。

以上

注)

\*1: Carbon dioxide Capture and Storage（CO<sub>2</sub>の回収・貯留）の略。

\*2: Carbon dioxide Capture, Utilization, and Storage（CO<sub>2</sub>の回収・有効活用・貯留）の略。

\*3: パートナー国と協力して温室効果ガスの削減に取り組み、削減の成果を両国で分け合う制度。脱炭素技術の普及などによる削減を定量的に評価し、相当のクレジットを取得することにより、双方の国の排出削減目標への貢献が可能。

\*4: 1本の坑井でCO<sub>2</sub>の圧入から生産までを実施するCO<sub>2</sub>-EORの手法の一つ。CO<sub>2</sub>を地中に圧入し（Huff：ハフ）、十分に浸透させることにより油と接触させたくえで（Soaking：ソーキング）、CO<sub>2</sub>とともに原油を生産する（Puff：パフ）という3段階から成る。

(参考写真)



共同スタディ契約署名式の様子

###